

## 直方ミニバスケットボールクラブだより

### 子どもの成長は「失敗」と「成功」のたまもの



毎年のことですが、この春先から夏場にかけては、まだまだ活動をスムーズに進めることができず立ち止まることも多々あります。失敗と成功を重ねながら、少しずつ安定的にリードする力を身につけていきます。最初から満足のいく動きにはなりません。子どもの失敗に対して指導はしつつも、しっかりうけとめ、うまくできたときは、しっかり評価することが大切です。子どもは、失敗と成功を何度も繰り返しながら成長していきます。失敗せず、成功ばかりなんていうことはあり得ません。失敗するから成功があるし、成長します。成長には失敗がつきものです。私たちおとなだって、子ども時代そうやって成長させてもらってきていると思います。

今の社会は、子どもに失敗させない、子どもの失敗を許さない、そんな社会になっていないでしょうか。おとなから「寛容さ」が薄れてしまうと、子どもの失敗が社会的トラブルに発展してしまうことが多くなり、子どもに失敗させないようにとの心理が強くはたらくようになります。結果、子どもの時代から「転ばぬ先の杖」が差し出されるが多くなっているということです。

しかし、子どもにとっては、「失敗」も「成功」も貴重な体験で、将来の財産です。私は、子どもに必要な力は、「転ばぬ先の杖」というよりも、「転んでも自分で立ち上がる力を」と提起しています。「自分で」の意味は、文字通り「自力で」という場合もありますが、自分だけでは難しいときもあるので、そのときは「だれかに相談できる力」という意味も含んでいます。自分が困ったとき相談できる人をもっておくことはとても大切で、それこそ「生きる力」です。子どもにとって大切な「つながる力」「つながる人」を、私たちかかわるおとなが大切にしなければなりません。

子どもは失敗や成功のプロセスで多くのことを学びます。その学びは、バスケットのこと、クラブのことにとどまらず、学校生活や地域での生活にも通じる社会性を育むうえで大切な内容を多く含んでいます。「バスケットを通して」「クラブ活動を通して」「スポーツを通して」というように、「…を通して」どんな力を身につけるのか、どんな自分になるのか、そのことが重要ですね。

